

愛して 涙も知ったけれど
私はいう いつも胸を張って
私の道を歩いてきたと……



全篇に流れるヒット・メロディが高らかに謳う愛と感動の詩！

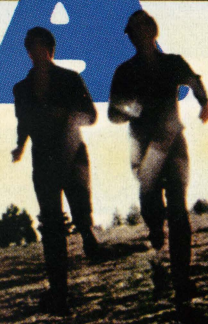
MY WAY

マイウェイ

ジョー・スチュワードソン
リチャード・ローリング
マリ・デュ・トワ
トニー・ジェイ
マドレーヌ・アッシャー

製作・脚本/エミール・ノファール ◆ 監督エミール・ノファール/ロイ・サージャント

■ カラー作品
コロムビア映画提供



●永遠のヒット・メロディが謳う 愛と感動のドラマ

“愛して 涙も知ったけれど、私という、いつも胸を張って、私の道を歩いてきたと……”“マイ・ウェイ”——フランク・シナトラのヒット曲をモチーフに使ったこの映画は、自分の信じた道をひたすら歩いた一人の男を中心に、その家族との間にくりひろげられる愛と涙と感動の人生ドラマだ。

名もない一介の労働者から、オリンピックのマラソン・レースで金メダル獲得という輝かしい未来にふみ出し、やがて成功者となっていった男マドックス。彼のモットーは“誰にも負けるな”ということだった。だが、4人の子供たちは、成長するにつれて厳格な父親のもとを離れていく。このドラマは、こうして哀歓に満ちた幕を開けていくのだ。

●愛と人生のすべてをあなたに語りかける

マドックスの3人の息子たちは、マドックス建設の後継者として、父の仕事を手伝うと同時に有望なスポーツマンでもあった。レース・ドライバーの長男トニーは、結婚相手を父に嫌われて家を出ていく。短距離ランナーの次男ポールは、自活の夢を求めて出ていく。マラソン・ランナーの三男バリ—は、事故で死亡。末娘サンドラは、水泳競技で負ける。「あなたは、自分のために子供たちを闘わせている。勝つことがそんなに大切なのですか」

子供たちを失ったマドックスに、妻フランが問いかける。愛とは何か、幸せとは何か、そして人生とは？ この映画はいまあなたにも起こっているだろう問題に、光を投げかけてくれる感動のドラマだ。

●美しいラブ・ストーリーのかずかず

夫と妻、息子たちと娘、そして息子の恋人たち——彼らが幾重にも織りなすかつうは、そのままいくつかの美しいラブ・ストーリーを描き出していく。そして、随所にもりこまれたレース・シーンにはスリルがいっぱい。娯楽映画のあらゆる要素が盛りこまれた作品である。

製作・脚本・監督（共同）を担当したのは、南アフリカ出身のエミール・ノファル。ノファルと共に監督にあたったのは、ロイ・サージャント。シナトラの持ち歌である主題歌“マイ・ウェイ”を歌うのはクライド・レイ。厳格な父親を好演するジョー・スチュワードソン、次男に扮するリチャード・ローリングの新鮮な魅力。このドラマを支えるにふさわしいフレッシュな顔ぶれだ。

●レース・シーンがスリリングな迫力を

この映画のみどころのひとつは、随所にそう入されている迫力あるレース・シーン。クライマックスのマラソン・シーンは、有名なイタリアのランナー、マルチエロ・フィアスカナーロがコーチに当たり、自らも出演。

また、カー・レースのシーン用にフォーミュラ・ワンそっくりの車が作られ、すさまじい事故シーン撮影のためアツという間に燃えてしまった。ジャッキー・ブレトリアス、パディ・ドライバー、ボブ・オルトフといった南アフリカの命知らずのトップ・ドライバーたちが、このシーンでスタント・マンになった。

その他、水泳、馬術、フェンシングと、スポーツ一家がくりひろげるスポーツ・シーンが、スリリングにドラマを盛りあげている。

全世界が泣いた珠玉の名作—
各国の爆発的超ヒットに続いて
いよいよ日本公開！



MY WAY マイウェイ

カラー作品＊コロムビア映画提供



伊勢丹前

★1月15日(祝)ロードショー

新宿スカラ座 (351)
3127